

自然共生を目指した企業連携

2023年1月25日

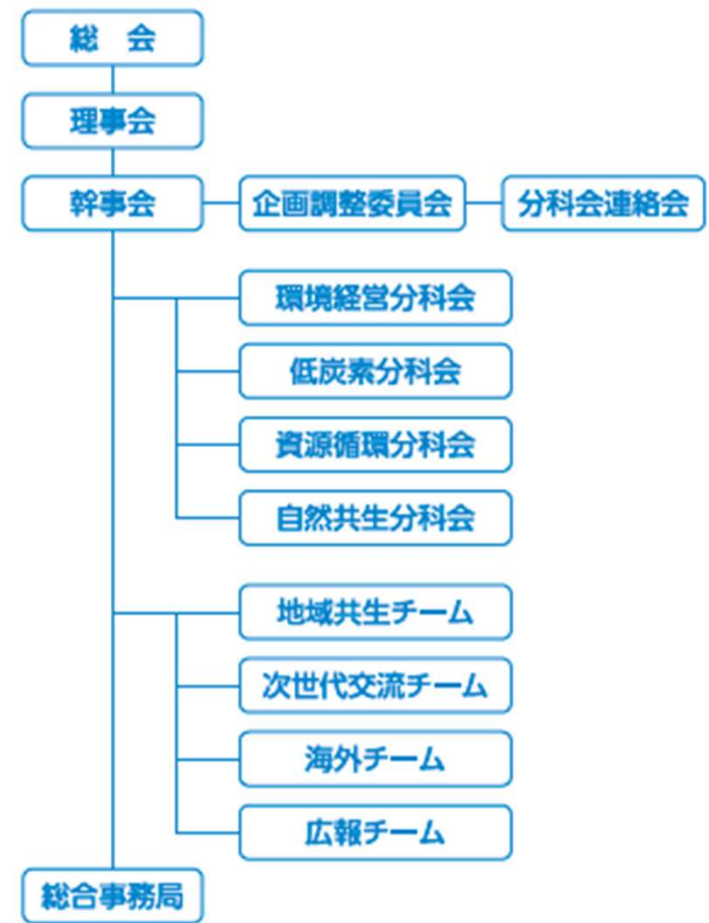
環境パートナーシップ・CLUB（EPOC）
自然共生分科会事務局
（東邦ガス株式会社）

- 環境パートナーシップ・CLUB（EPOC）は、中部地域の産業界が中心となり、2000年2月に設立。会員企業・団体は2022年7月現在で253社。
- エコ・エフィシエンシー（環境効率性）の実現を追及するとともに、中部圏から環境対応に関するさまざまな情報を発信し、世界に誇れる環境先進地域の形成と、安全かつ快適な循環型経済社会の構築を目指している。

役員（2022年7月現在）※敬称略

会 長	小池 利和	ブラザー工業(株)
副 会 長	篠原 幸弘	(株)デンソー
	小林 茂	日本ガイシ(株)
	増田 信之	東邦ガス(株)
	片山 明彦	中部電力(株)
	森 厚人	東海旅客鉄道(株)
理 事	寺師 茂樹	トヨタ自動車(株)
	瀬下 睦弘	(株)アイシン
	植田 康裕	(株)荏原製作所
	久野 恒靖	新東工業(株)
	山本 哲也	(株)ダイセキ
	松田 裕昭	(株)豊田自動織機
	相馬 秀次	日本製鉄(株)
	寄田 浩	(株)ノリタケカンパニーリミテド
	湯次 善磨	(株)日立製作所
	甫立 和也	富士通(株)
監 事	能登谷 淳	三井物産(株)
	小川 拓也	リンナイ(株)
	笠野 雅嗣	岡谷鋼機(株)
総合事務局長	尾堂 真一	日本特殊陶業(株)
	小坂 信之	(一社)中部産業連盟

組織体制



環境経営分科会

セミナーや視察を通じて、環境問題に関する社会動向や関係法令、技術情報、企業の対応事例など、環境経営と環境管理の実務に役立つ情報を会員企業に提供。また、分科会参加メンバーの研鑽の場として勉強会を開催。



環境経営先進セミナー

低炭素分科会

カーボンニュートラルの実現に向けた社会の動向や、水素や再エネをはじめとした先進的な取組みを調査するとともに、省エネ技術など業種や業態の枠を超えた幅広い事例や革新技術の情報を発信し、会員各社のレベルアップと相互交流・連携を促進。



現地見学会の様子

資源循環分科会

中部地区の資源循環社会の形成を促進するため、愛知県と協同でセミナーや視察等を開催し、知識や技術の向上と会員企業間の情報交換を実施。産官学の連携により、資源循環に関する課題解決や最新情報を共有・発信。



愛知環境賞受賞企業見学会の様子

自然共生分科会

企業の事業活動全般を通じて生態系に与える影響の把握や低減への取組み、生態系から得られる便益の持続可能な利用に関する企業の取組みなどについて、事例調査や支援活動等を行うことで会員企業の取組みを支援。



生物多様性保全活動の視察

地域共生チーム

「愛知環境賞」(愛知県受託事業)の企画実行を主な活動とし、表彰事例の周知、普及展開等を実施。更なる「環境先進地域」を目指し、会員相互が参加・交流できるよう、講演会・交流会等を企画・実施。



2022愛知環境賞表彰式

次世代交流チーム

小中学生など次世代層に対して環境啓発と環境教育を実施するため、会員企業が有する教育ツールや施設を活用した実践的かつ体験型の環境講座を運営するとともに、行政等との連携を通じた幅広い環境啓発活動を実施。



会員企業による環境講座

海外チーム

海外における環境規制や動向に対する研鑽を深め、EPOC内外へ、その影響や対策ポイントなど有効性の高い情報を発信。各分科会・チーム及び企画活動と連携し、海外に関連するイベントの企画を通じて、会員の海外活動・事業展開に貢献。



海外での企業活動に関する意見交換会

総会・理事会・幹事会

年1回開催される総会では、エネルギー・環境分野の有識者等をお招きし、環境への取組みに係る講演会を開催。また、年2回開催される理事会、幹事会ではEPOCの活動に関する中長期的な議論を実施。

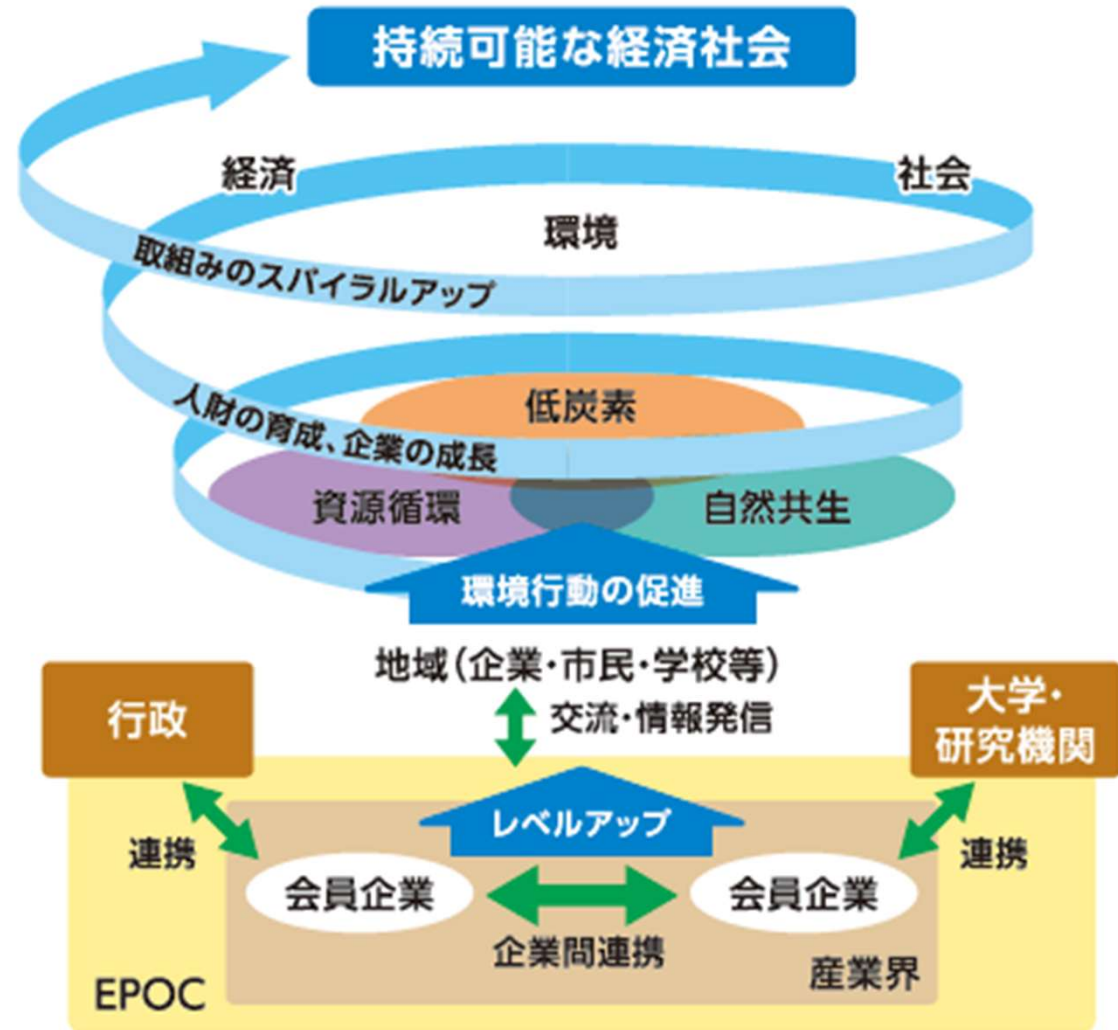


講演会

- 企業が培ってきた環境のわざ(成果)を活かして、「低炭素」・「資源循環」・「自然共生」を相互に協調させた持続可能な経済社会の構築を目指す。

活動方針

- 環境経営の実践と会員間の連携強化により、
 - 産業界全体の更なるレベルアップを図る。
 - 事業活動を通じた環境・社会課題の解決、技術革新、イノベーション創出を推進する。
- 会員以外の企業や市民・学校等、地域との交流や情報発信により、環境行動の契機を提供する。



■ 参加会員数

29社 (2022年12月時点)

■ 主な活動内容

生物多様性および企業を取巻く国内外の動向や生物多様性に影響を及ぼしている環境負荷の低減に向けた取組みなどについて、事例紹介や情報提供、現地視察、勉強会などを行うことで、会員企業の取組みを支援。

- ▶ 生物多様性に関するセミナー・勉強会
- ▶ 生態系保全取組みの視察・体験型学習
- ▶ 参加会員の情報交換・交流

(参考) 2021年度の活動

「ビジョン2030とポスト愛知目標やSDGsの要求事項を照らし、現状の精査から課題を明確化」を活動テーマに、課題として捉えた「連携と情報公開」の実現に向けて参考となる活動を企画・実行し、会員相互のレベルアップに貢献。

具体的には、新型コロナウイルス感染症対策を考慮して、自然共生分科会、セミナー、視察、勉強会を開催。また、地域のNPOとの連携を図るため、現地で生物多様性保全に係わるNPO活動に参加する取り組みも実施。

<セミナー>

■日時： 2023年1月16日 (月) 13:30~16:30

■方式： 会場 + Web会議

■内容：

【講演Ⅰ】「あいち名古屋から考えるポスト2020年目標 ~COP15の最新情報~」

東京大学大学院農学生命科学研究科 香坂 玲 氏

【講演Ⅱ】「自然共生に向けたブリヂストンの取り組み」

株式会社ブリヂストン 稲継 明宏 氏



講師 香坂氏



講師 稲継氏



講演会場の様子

<勉強会 (第1回) >

■日時： 2022年8月24日 (水) 14:00~16:30

■方式： 会場 + Web会議

■内容：

【講演Ⅰ】「生物多様性あいち学生プロジェクトGAIAの活動」

生物多様性あいち学生プロジェクトGAIA 中島 さくら 氏

「自然共生サイトの運営・管理に係わる市民科学的アプローチ提案」

グリーンフロント研究所株式会社 小串 重治 氏

【講演Ⅱ】「なごやにおけるOECEMを考える」

なごや生物多様性保全活動協議会 長谷川 泰洋 氏



講師 中島氏



講師 小串氏



講師 長谷川氏



講演会場の様子

<勉強会 (第2回) >

■日時： 2022年10月19日 (水) 14:00~16:30

■方式： 会場 + Web会議

■内容：

【講演Ⅰ】「OECMと自然共生サイト」

株式会社エコロジープス 永石 文明 氏

【講演Ⅱ】「横浜ゴムの生物多様性保全の取り組み」

横浜ゴム株式会社 旭 誠司 氏



講師 永石氏



講師 旭氏



講演会場の様子

<勉強会 (第3回) >

■日 時： 2022年12月21日 (水) 14:00~16:30

■方 式： 会場 + Web会議

■内 容：

【講演Ⅰ】「あいち生物多様性企業認証」

愛知県環境局環境政策部自然環境課 大越 士生 氏

【講演Ⅱ】「OECMと自然共生サイト」

株式会社加藤建設 久坂 耕 氏



講師 大越氏



講師 久坂氏



講演会場の様子

<セミナー>

開催日	講演題目	講師	(敬称略)
12/3(金)	ポスト愛知目標の要求事項と生物多様性における世界の動向について	環境省自然環境局	谷貝 雄三
	サステナブルな社会への移行の多様な要請に対する経営変革について	MS&ADインターリスク総研(株)	原口 真

<勉強会>

開催日	講演題目	講師	(敬称略)
8/25(水)	あいち生物多様性戦略2030について	愛知県環境局	山内 喜朗
	生態系ネットワーク協議会について	愛知県環境局	滝口 徹
10/20(水)	私たちができる生物多様性の保全戦術	兵庫県立大学	三橋 弘宗
	アオウミガメの上陸産卵に関わる表浜海岸の各種調査や海岸清掃など	(特非)表浜ネットワーク	田中 雄二
12/26(木)	企業や個人が取り組む、森の恵みとSDGs	林野庁林政部	宮脇 慈
	気象キャスターと考える地球温暖化と異常気象	(特非)気象キャスターネットワーク	吉田 晴香
2/16(水)	伝統芸能に利用される自然資本由来の道具に関わる材料調達の問題を紹介	伝統芸能の道具ラボ	田村 民子

<視察会>

- 日 時 : 2022年10月12日 (水) 13:00~17:00
- 視察先 : トヨタテクニカルセンター下山 (愛知県豊田市下山田代町中弓沢)
- 内 容 : 「Toyota Technical Center Shimoyama での自然・地域との共生に向けた取り組み」

「里山リノベーション」として、地元の協力を得ながら取組まれている生物多様性の高い里山環境の創出と維持管理に関わる取組みを視察するとともに、現地の森林や谷津田など里山環境の状況を確認。



環境保全措置地区の風景



視察会の様子①



視察会の様子②

<体験型学習 (第1回)>

- 日 時 : 2022年10月24日 (月) 9:00~12:00
- 体験先 : 猪高緑地 (名古屋市名東区)
- 講 師 : 名東自然倶楽部
- 内 容 : 「生物多様性の保全活動の体験について」

猪高緑地での活動内容や保全活動の大切さについて学習するとともに、名東自然倶楽部さまにご指導いただき、竹の伐採など猪高の森の保全活動を体験。



体験型学習の様子①



体験型学習の様子②



竹林での集合写真

<体験型学習 (第2回) >

- 日 時 : 2022年11月28日 (月) 8:50~12:00
- 体験先 : 北山湿地 (愛知県岡崎市)
- 講 師 : おかざき湿地保護の会
- 内 容 : 「湿地保全活動の体験について」

北山湿地における動植物や湿地保全活動の大切さなどについて学習するとともに、おかざき湿地保護の会さまにご指導いただき、針葉樹の伐採など北山湿地の保全活動を体験。



体験型学習の様子①



体験型学習の様子②



学習の風景

<情報提供>

- TNFD関連
- SBTs for Nature関連
- CDP関連
- OECM・自然共生サイト関連
- 生物多様性に関する世論調査
- 「企業内容等の開示に関する内閣府令」等の改正案

(3) サステナビリティ情報の開示における考え方及び望ましい開示に向けた取組み（「記述情報の開示に関する原則」）

WG報告で提言されたサステナビリティ情報の開示についての期待等を踏まえて、サステナビリティ情報の開示における考え方及び望ましい開示に向けた取組みを取りまとめました。なお、主な内容は、以下のとおりです。

・「戦略」と「指標及び目標」について、各企業が重要性を判断した上で記載しないこととした場合でも、当該判断やその根拠の開示が期待されること

・気候変動対応が重要である場合、「ガバナンス」、「戦略」、「リスク管理」、「指標及び目標」の枠で開示することとすべきであり、GHG排出量について、各企業の業態や経営環境等を踏まえた重要性の判断を前提としつつ、Scope 1・Scope 2のGHG排出量については、積極的な開示が期待されること

・「女性管理職比率」等の多様性に関する指標について、連結グループにおける会社ごとの指標の記載に加えて、連結ベースの開示に努めるべきであること

出典) 金融庁ウェブサイト (<https://www.fsa.go.jp/news/r4/sonota/20221107/20221107.html>)

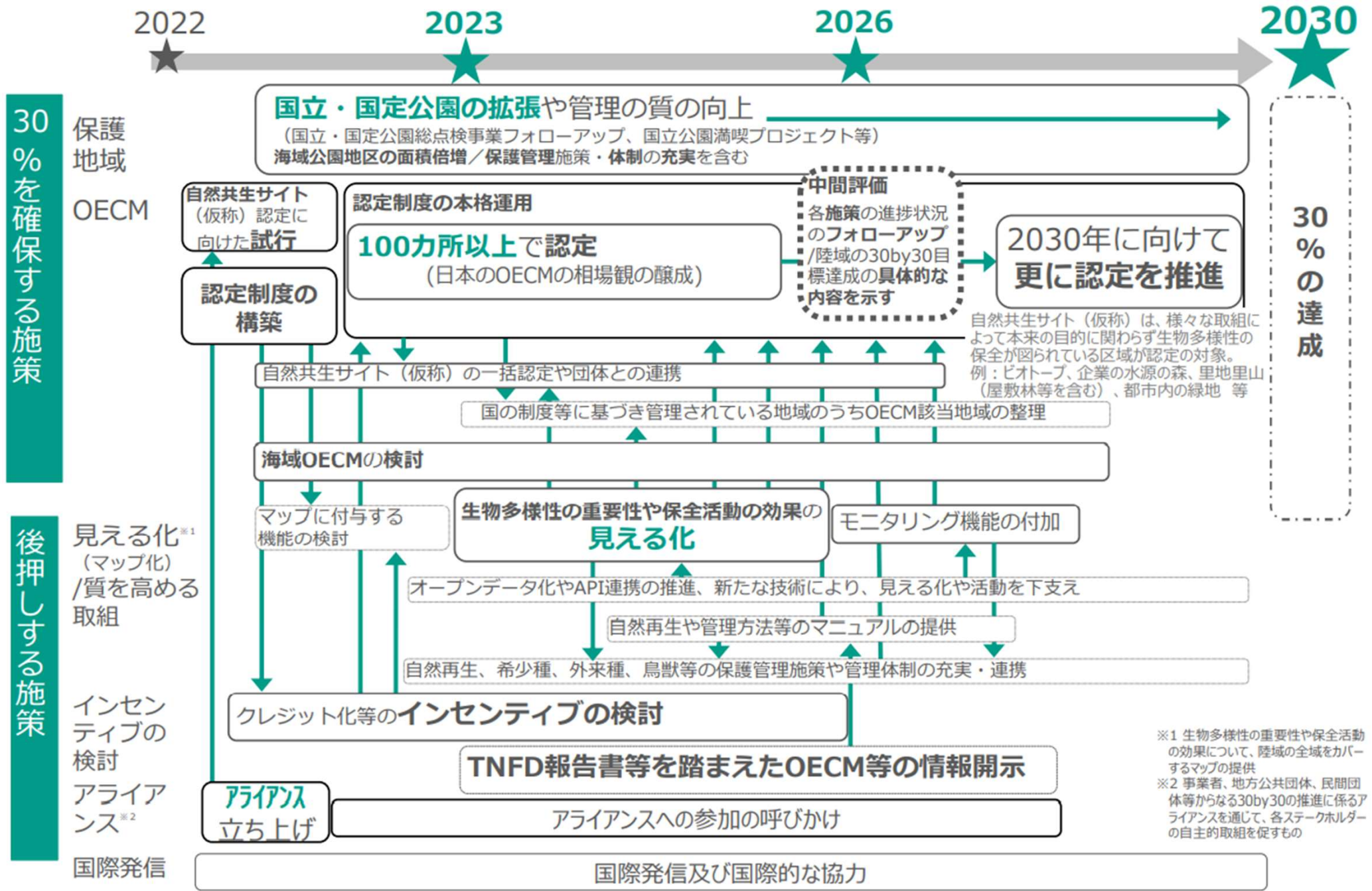
<分科会メンバーからのアンケート回答（抜粋）>

【分科会の活動について】

- 企業としての自然共生への対応に関する勉強会を開催してほしい
- 分科会メンバーが共同で行う生物多様性保全活動を企画してほしい
- 業種を超えた横の関係強化やパートナーシップに繋がる企画をしてほしい
- 実務者同士が意見交換（困っていることを相談）できる良い場である
- ネイチャーポジティブに寄与する活動方法について共有したい

【他メンバーに聞いてみたいこと・教えてもらいたいこと】

- 自然共生・生物多様性に関する取組み状況や活動例
- CDP対応やTNFD対応など国際的な枠組みへの対応状況
- 自然共生に関する情報の入手手段、社内への展開
- 社内上位層への理解活動の方法
- 生物多様性活動の主流化、社内理解とその展開方法



EPOC

環境パートナーシップ・CLUB

ENVIRONMENTAL PARTNERSHIP ORGANIZING CLUB

未来につながる、明日をつくる